

(別記様式第 15 号)

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

松川村

No.	事業項目	事業名
1	みんなの暮らしを守る 森林づくり	枯損木早期発見事業
事業費		308,000 円 (うち支援金: 230,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

村内西側のアカマツ林を中心に松くい虫被害が発生しており、特に近年は被害が増加傾向であることから、伐倒駆除や樹種転換を積極的に進め、被害の拡大防止を図る必要がある。

(2) 本事業の目的

村内の松くい虫被害木を早期発見し、被害の拡大防止を図る。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

- (1) 実施場所 村内全域
- (2) 対象者 山林所有者
- (3) 実施方法 監視員による被害木監視活動

(4) 事業目標及び当年度事業量

- ①全体計画 (平成 30～令和 4 年度) 各年度における被害木の全量発見
- ②令和元年度実績 令和元年度の新たな被害木発見数 315 本



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害を早期発見することにより、徹底した駆除等の被害対策を行い、村内はもとより近隣の大町市や池田町への松くい虫被害の拡大を防ぐ。

(2) 継続性

継続的に松くい虫被害を把握することにより、適切な駆除等の被害対策が可能となることから、松くい虫被害対策に有効である。

(3) 普及性

松川村の主要樹種であるアカマツを保全することにより、森林の多面的機能、優れた景観、森林資源及びマツタケ発生環境等の保全を図る。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

松くい虫の被害拡散防止として薬剤散布の実施が厳しい中、全量伐倒燻蒸処理が最も有効な施策である。

(2) 課題

温暖化等の影響に伴い、標高 800m ラインを上回る被害木が発生している。伐倒燻蒸の処理後の状態が幹線道路からの景観に影響しているため、有効活用できないか等の検討が必要。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

これまでの事業実施により被害量は減ってきているため、今後も継続していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

松川村

No.	事業項目	事業名
2	森林を支える豊かな地域づくり	協働による森林づくり事業
事業費		587,455 円 (うち支援金: 360,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

松川村の森林は、その多くが地域住民の手によって維持・管理されてきたが、近年は関心が低下しつつあり、森林の適切な整備が進まない状況にある。

(2) 本事業の目的

森林・里山への関心を高めるため、多くの観光客や村民が訪れる馬羅尾高原の森林整備を進める。特に、村子ども会育成連絡協議会と共催して「松川村山の日植樹祭」を開催する。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

- (1) 実施場所 馬羅尾高原 (村有林)
- (2) 対象者 村民及び観光客
- (3) 実施方法 植樹祭の準備、森林遊歩道の整備

(4) 事業目標及び当年度事業量

- ①全体計画 (平成 30～令和 4 年度) 遊歩道整備 6.75ha・植樹祭準備 2.5ha
- ②令和元年度実績 遊歩道整備 1.35ha・植樹祭準備 0.5ha



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

馬羅尾高原において「松川村山の日」に植樹祭を開催し、小学生と保護者、村民、民間企業等の参加を促すことで、森林への関心を高めていく。

(2) 継続性

5月第3土曜日が「松川村山の日」に制定されており、毎年度多くの観光客が集まる馬羅尾高原において植樹祭を開催することにより、村民等の森林への関心を高めていく。

(3) 普及性

植樹祭により森林への理解を深めるとともに、遊歩道の整備により、多くの観光客等が森林と触れ合う機会を提供する。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

村として「山の日」を制定し、地域の里山の保全に取り組んでいる。村民にも「松川村山の日植樹祭」が浸透してきており、未来を担う小学生や地域の住民に林業を経験してもらうことにより、里山、森林への関心を高めることが出来つつある。

(2) 課題

植樹祭以外にも林業体験の場や、森林と触れ合う機会を設けることが必要。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

村民にも浸透してきており、今後も継続して実施する予定。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)